

内閣官房 内閣情報調査室
内閣衛星情報センター

CABINET
SATELLITE
INTELLIGENCE
CENTER

2020-2021
採用案内

〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町9-13

☎03-3267-9564（採用専用）

JR総武線・東京メトロ有楽町線・南北線
「市ヶ谷」駅徒歩10分



内閣衛星情報センター

Cabinet Satellite Intelligence Center

内閣衛星情報センターを 志望する皆さんへ

我が国における情報収集衛星の導入の閣議決定を受けて、平成13年に内閣衛星情報センターが設立されてから19年が経ちました。設立以来、当センターは政府の“目”として、国内外問わず幅広く安全保障及び危機管理に関する正確な情報を収集し、政府の重要政策の意思決定に貢献してきました。

その間も我が国を取り巻く安全保障環境は一段と厳しさを増しており、また甚大な被害をもたらす自然災害によって私達の日常は脅かされ続けていますが、このような脅威と向き合うには、まずは情報の力が必要不可欠となります。

当センターは、更なる情報収集体制の強化に向け、新規衛星の開発・分析能力の向上に日々邁進しています。体制の強化には、人材の増強が不可欠な要素であり、皆さんの気概に富み意欲ある新たな力を欲しています。

当センターの一員として宇宙を仕事場に共に働ける日を心待ちにしています。

内閣衛星情報センター所長
宮川 正

目次	P.
内閣衛星情報センターを志望する皆さんへ	01
内閣衛星情報センターについて	02
内閣衛星情報センターの主な業務	04
管理部の業務について	06
分析部の業務について	08
技術部の業務について	10
副センター・受信管制局	12
日々の業務の流れ	13
先輩職員への一問一答	14
育児中の女性職員から	15
キャリアステップ・採用	16



内閣衛星情報センターについて



内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。

現在、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機を運用しています。今後とも機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化し、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関として、国民に対し貢献できるよう努めていきます。

情報収集衛星の必要性

我が国を取り巻く国際情勢は依然として厳しく、また大規模な自然災害も続いています。外交・防衛等の安全保障や大規模災害等への対応等の危機管理のための情報収集は怠ることのできない状況です。

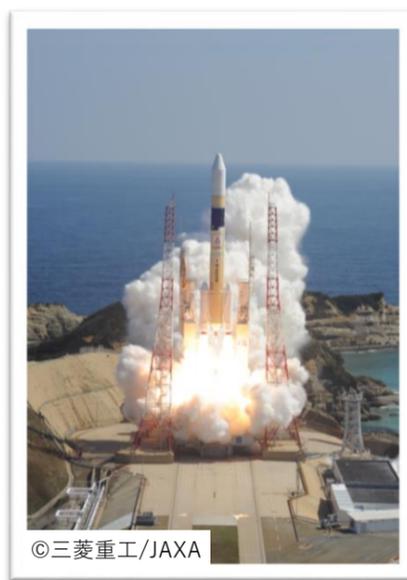
内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星により撮像した安全保障や危機管理に関する画像を、官邸をはじめとする政府機関に提供するとともに、自ら分析を行っています。画像から得られる情報は高い評価を受けており、各機関で積極的に活用されています。

これからの内閣衛星情報センター

現在内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星8機及びデータ中継衛星2機の10機体制の構築を目指しています。

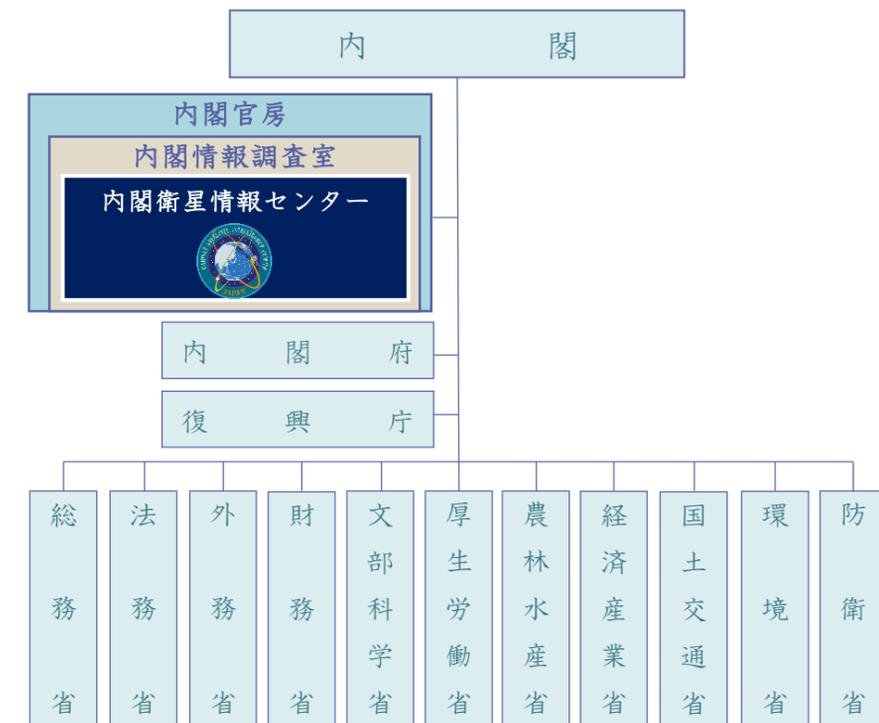
10機体制により、地球上の任意の地点を1日2回以上撮像可能になります。また、伝送機会の大幅な増加により即時性も向上し、現在よりも鮮度の高いタイムリーな情報を、官邸や省庁等に提供することが可能になります。

他方、複数の衛星の並行開発や10機体制の運用に耐えうる地上施設の開発が求められると共に、情報収集衛星の運用業務も増加することが見込まれることから、これらを支える内閣衛星情報センター職員の責務は今後更に重要となると考えています。



省庁機構図

中央省庁における内閣衛星情報センターの位置付けは以下のとおりです。



内閣衛星情報センターの組織体制

内閣衛星情報センターは、内閣情報官直下の内閣情報調査室におかれた組織です。

組織体制は所長、次長以下、管理部、分析部、技術部がある中央センター(東京都)と、副センター(茨城県)及び北受信管制局(北海道)・南受信管制局(鹿児島県)から構成されています。

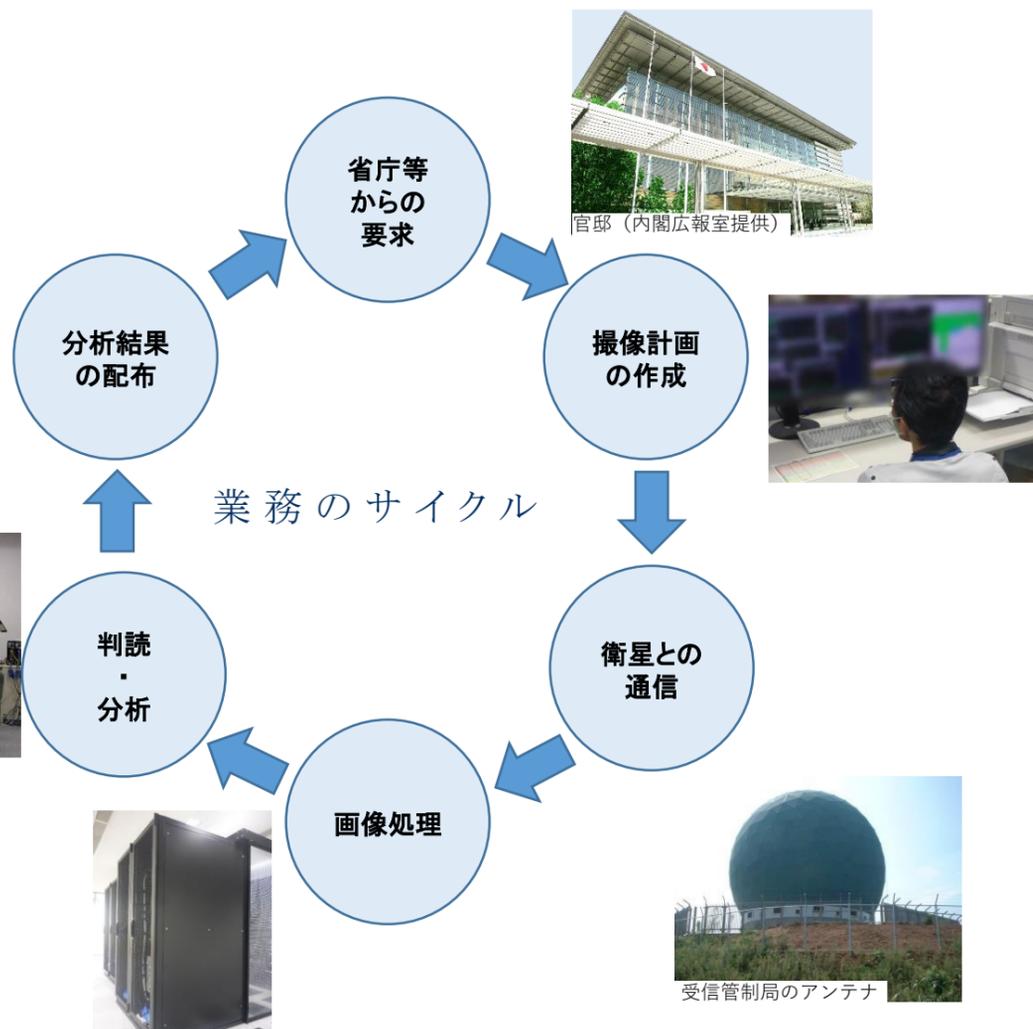
職員は、中央センター、副センター及び北・南受信管制局のいずれかに勤務することとなります。



内閣衛星情報センターの主な業務

情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、下図のサイクルで行います。このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。サイクル各項目における業務内容及び所掌する部署は、下表のとおりです。



項目	業務内容	所掌部署
省庁等からの要求	政策立案や任務遂行に必要な情報について、省庁等から要求を受け付けます。	管理部
撮像計画の作成	情報収集衛星を用いて地球上のどこを撮像するか計画します。	管理部 分析部
衛星との通信	情報収集衛星を制御する命令を送信します。また、撮像した画像データを受信します。	技術部 副センター 北・南受信管制局
画像処理	受信した画像データを視認可能なものとするために、画像処理を行います。	技術部
判読・分析	画像を判読・分析し、報告書を作成します。	分析部
分析結果の配布	作成した報告書を省庁へ提供します。	管理部 分析部

情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけではなく、情報収集衛星システムの開発※も独自に行っています。

情報収集衛星システムは衛星システムと地上システムに分類されます。情報収集衛星は衛星システムとして、撮像計画の作成や衛星との通信、画像処理等を行うシステムは地上システムとしてそれぞれ開発しています。

情報収集業務を支えるために、運用者のニーズをふまえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

※ 内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。

開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。

具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズの調査、スケジュールの進捗管理等があります。



※ 情報収集衛星には、現在年間600億円以上の予算が使われています。これは政府の宇宙関係予算の中で最大のものです。

加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が起こったとき、内閣衛星情報センターでは自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年に公開を始めてから令和2年までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等7件の災害で、合計148件の画像を公開しています。



北海道勇払郡厚真町吉野地区周辺
(平成30年北海道胆振東部地震による土砂崩れ)



宮城県栗原市中央部
(令和元年10月台風19号に係る被災地域)

管理部

全体を俯瞰する

内閣衛星情報センター全体の業務が円滑に行われるよう内外の関係機関と連絡調整を行っていくことが主な業務となります。

たとえば、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画を他の政府機関と相談しながら立案したり、国会審議の対応や国会議員への説明を行ったり、情報収集衛星が果たしている役割への一般の方への理解を深める取組を進めたりといったことです。

また、情報収集衛星の性能を最大限活用し、どの地点を、どのように撮像するかの計画（撮像計画）を日々作成しています。

総務課の役割

総務課は国会に対する説明や宇宙基本計画等の政策文書の策定への参画といった、内閣衛星情報センターの対外的な窓口としての業務や、中長期的な将来構想の策定等を担当しています。

〈先輩からのメッセージ〉

- ▶ **業務内容** 内閣衛星情報センターの業務が円滑に行われるために、関係機関との連絡調整を行う業務を担当しており、特に情報収集衛星に関する基本方針を検討する会議の調整や、情報収集衛星打上げの際の連絡調整を行っています。
- ▶ **魅力** 情報収集衛星の打上げに携わる事が出来るという点が魅力です。何年もかけて開発された情報収集衛星を打ち上げる際、各部門からの連絡調整という形で携わることができ、打上げを見届けることができるという機会はなかなかないと思います。
- ▶ **やりがい** 内閣衛星情報センターの将来に関わる、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画に関わることができ、今後についての重要な決定をする会議への参加等、今後の方向性が決まる瞬間に立ち会えた際にはやりがいを感じます。
- ▶ **大変だったこと** 情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画の立案に携わるため、管理部だけでなく分析部、技術部がどのような事をしていて何を必要としているかを理解しておかなければならないことが最初は大変でした。しかし、内閣衛星情報センター全体を知ることができたという点では勉強になりましたし、今後の業務に役立つと感じました。



若手職員・女性

会計課の役割

会計課は内閣衛星情報センターと企業との間で必要な契約の締結等を行っています。

情報収集衛星システムの開発において、技術的な仕様は技術部にて決定しますが、契約額が予算内に収まっているか等の会計に関する調整等が主な業務です。

〈先輩からのメッセージ〉

- ▶ **業務内容** 情報収集衛星や様々なシステムの開発、最新技術の動向調査など技術的な部分に係る開発委託契約に関する会計業務を担当しています。
- ▶ **魅力** 国の行う業務は多様であり、その多くは民間企業等と協力する必要があります。契約という行為は、国が他者と協力するための出発地点であり、契約書は業務を行うために守るべき基本ルールです。契約処理という業務を通じ、国の機関がどのように運営されているかを知ることができます。また、契約処理を通じて、各種業務を広い視点で見ることができ、組織の全体像が把握しやすい点も大きな魅力だと思います。
- ▶ **やりがい** 実際に開発や運用を行うためには、契約が欠かせないものとなります。契約を締結するまでには、現場の方やメーカーの要望を聞き、できるだけ応えられるよう契約書を作成することが必要です。契約書は様々な法令を根拠として記載されており、そのすべてを十分に理解することは非常に困難ですが、それを学んでいながら適切に契約締結まで至ることができた時には、達成感が大きいと思います。
- ▶ **大変だったこと** 一言に「契約」といっても、その業務内容が変わると、契約書の内容や契約締結までの各種ステップ、契約の履行方法など様々な点が大きく異なります。そのため、開発委託契約を行ったことがない新規の相手に、「開発委託契約」というものを理解していただくことは非常に時間がかかります。そのため、自身の担当する契約のうち新規の契約については、契約締結に至るまでに自身が学ばなければいけないことも多く、苦勞したと思います。



若手職員・女性

運用情報管理課の役割

運用情報管理課は省庁との窓口業務や、情報収集衛星の撮像計画の作成を担当しています。様々な省庁からの情報のニーズに基づき、分析部と協力し情報収集衛星の撮像計画を日々作成しています。

〈先輩からのメッセージ〉

- ▶ **業務内容** どの地点を、どの情報収集衛星で撮像し、いつ画像データを入手できるかという計画を作成する「撮像計画立案業務」を行っています。画像判読を担当する分析部や衛星運用を担当する技術部と密接に連携をとりつつ業務を進めます。また、日々の運用を通じて認識した運用上の問題点や情報収集衛星システムに関する改善点について、システム開発担当の技術部職員と調整し将来システムの設計に反映する開発支援業務にも取り組んでいます。
- ▶ **魅力** 情報収集衛星を最大限有効に活用できるよう撮像計画の立案業務に取り組んでいます。そのため、分析部や技術部との連携を密にし、撮像要求の全体像の把握と情報収集衛星を運用するシステム状態を把握することが求められます。他部署との連携が多い撮像計画業務を通じて、学べることで多く内閣衛星情報センター全体の目的を日々感じることができ魅力的な業務だと思います。
- ▶ **やりがい** 衛星センターの業務は、内閣の情報収集に関わり、高度な判断に役立っているという実感を持つことができ、やりがいを感じることができます。また、開発支援業務を通じて将来のシステム設計に反映され、業務改善につながると達成感が得られます。
- ▶ **大変だったこと** これまで経験したことのない部署への配置転換は大変だと感じています。内閣衛星情報センターにおける業務はどの分野でも専門性が高く、業務を習得するまでにかなりのエネルギーを要しますが、各部署にエキスパートがいて、彼らから業務を習得できます。他部署の業務を経験することで、従来担当していた業務や自分が専門としたい業務への理解が深まり、キャリアステップや視野を広げることもつながります。



ベテラン職員・男性

分析部

InformationからIntelligenceへ

情報収集衛星により入手した画像の判読・分析と報告書の作成が主な業務となります。安全保障関連や大規模災害等の危機管理事案が発生した際は、いち早く情報収集・判読分析を行い、関係機関に提供しています。

また、普段から衛星画像や公開情報を収集し、各地の情勢を観察し、緊急事態が発生しても速やかに情報の収集・分析にとりかかれる態勢を整えています。

このほか、判読・分析を行う分析官の能力を高めるための判読分析に関する教育や、判読分析を円滑・効果的に行うための調査研究も行っています。

管理課の役割

管理課は主に分析部内の取りまとめと、分析官を支えるための業務を担当しています。例えば、新たに内閣衛星情報センターに着任した分析官への教育や、新たな分析手法等についての技術動向調査、将来の情報収集衛星システムに対する分析官からの要望の取りまとめと、技術部との連絡調整が挙げられます。

先輩からのメッセージ

- ▶ **業務内容** 分析業務が円滑に進められるように、情報収集衛星システムの開発、不具合対応や、システムの使用法の講習会実施に向けた各種手続き等、分析官のサポートを行っています。
- ▶ **魅力** 分析官のサポートや情報収集衛星システムの開発などを行う中で、業者の方をはじめ多くの人と接していますが、それぞれのバックグラウンドが全く違うため、話すす中でいつも新鮮な発見があり楽しく仕事をしています。
- ▶ **やりがい** システムの不具合対応に多くの時間を割いてきましたが、不具合が解消され正常通り運用が再開されると、頑張ってよかったという気持ちになりました。また、ときには職員の方から感謝していただくこともあり、仕事だからやって当たり前のことだとは思いつつも、その時はよりやりがいを感じました。
- ▶ **大変だったこと** システム関連の知識が全くないところからのスタートだったので、最初は会議に出ても用語も何もわからない状態でした。そんな中でも上司や先輩の方々が丁寧に指導くださりなんとかやっていくことができました。今では会議でも議題についていくことができ、ほんの少しずつですが成長を感じています。



若手職員・女性

主任分析官付の役割

主任分析官付とは、主任分析官をトップとして複数の分析官がそれを補佐し、日々画像の判読・分析及び報告書の作成を行う部署となります。分析官は、衛星が撮像した画像に含まれる情報を分析結果としてわかりやすく報告書にまとめることを担当しています。Informationである衛星画像をIntelligenceとして分析結果に加工し、政策決定者に必要とするものを作り上げることが主な業務となります。

先輩からのメッセージ

- ▶ **業務内容** 情報収集衛星によって撮像された画像の判読・分析、報告書の作成を担当しています。
- ▶ **魅力** 安全保障関連の事案について実際に何が起こったのか、新聞やテレビなどを通していない生の情報を扱えるところ。また、情報収集衛星の画像という“国家機密”を扱う日本で数少ない省庁であり、普通の生活では絶対に関わりのない世界と関わることができるというのが魅力であると思います。
- ▶ **やりがい** 作成した報告書が総理や他省庁に送付され、政策の意思決定に寄与できることです。
- ▶ **大変だったこと** 日本の安全保障に関連する重大な事案が発生し、その状況を知る唯一の方法が衛星画像ということがありました。総理へ数時間後に状況を報告するために、急いで報告書を作成しなければならず、とても大変でした。
- ▶ **業務内容** 官邸や省庁からの要求に基づいた業務計画を作成し、撮像計画を作成している部署へ提出、調整を行う。それらを基に情報収集衛星が撮像した衛星画像を判読し、最新の世界情勢や公開情報を参考に、分析した報告書を作成・報告しています。
- ▶ **魅力** 今、世界の何処かで何が起きているのかを、世界中…は言い過ぎかもしれないので、おそらく日本中の誰よりも早く知ることができ、それを必要としている人に伝えることができることです。
- ▶ **やりがい** 日々作成している一つ一つの情報だけだと見えてこないものが、半年、一年を通して、総括した時に何か新しい発見となったりと長期的にやりがいを感じる時もありますが、情報を伝えた相手から報告の内容が良い情報だと言っていた時に一番やりがいを感じます。
- ▶ **大変だったこと** 普段は業務計画の通りに淡々と業務を行っているのですが、複数の場所で同じ時期に並行して事案が発生した時は、瞬間的に作業量が増えてしまい大変でした。幸いなことに、それらが大きなところで関連していたので、情報を利用する側も優先順位が同じであり、情報の伝達に優劣を付けることができ助かりました。情報は必要とする人に、その時に伝えられないと意味のないものになってしまうので。



若手職員・男性



ベテラン職員・男性

分析結果の例

右図は平成25年(2013年)11月のフィリピンにおける台風の被害状況についての分析結果です。分析結果を見ると、台風で浸水した箇所を地図上に示した上で、滑走路には影響がないことを示しています。これにより、政策決定者は当該空港への支援物資の空輸や人員の派遣といったことを政策の選択肢に含めることができるようになります。

上記のような危機管理における分析の他にも、外交・防衛等の安全保障に係る対象を必要に応じて判読及び分析を行い、省庁等へ配布しています。



技術部

宇宙へ送る、宇宙から受け取る

地上施設及び衛星の開発、衛星打ち上げが主な業務となります。
開発業務は、運用上の問題点や要望、最新の技術動向を踏まえた衛星の仕様と設計を検討し、その結果をもとに製造企業を選定して開発を実施します。
開発した衛星は、関係機関や企業と協力して打ち上げます。
地上施設及び衛星は、機能が問題なく発揮されているかを常にチェックしています。
また、運用中も性能の維持向上の取り組みを続けています。

企画課の役割

企画課は技術部の総括部署であり、情報収集衛星システムの開発方針を決定するための事務作業やこれらのシステムの品質管理、衛星と通信する際の電波を使用するための申請のほか、情報収集衛星を打ち上げるためのロケットについての調整を担当しています。

また、将来の情報収集衛星システムに有用と思われる技術動向の調査を実施しており、情報収集衛星システム開発へのフィードバックを行う等、内閣衛星情報センターに関する技術について幅広く携わっています。

〈先輩からのメッセージ〉

- ▶ **業務内容** 情報収集衛星の打ち上げ及び初期運用業務を主に担当しており、打ち上げ前後に内閣衛星情報センターの窓口として、JAXA等の関連組織との調整や打ち上げに係る各種事務手続き等を行っています。
- ▶ **魅力** 打ち上げの臨場感を味わえることが魅力です。令和2年2月の打ち上げ時には初期運用窓口として24時間シフトを組み、関連組織の職員とともに、衛星を管制するエリアで業務を行いました。打ち上げ前後の管制エリアは緊張感があり、現場の雰囲気を生で感じました。
- ▶ **やりがい** 事務作業等が多く表に出る華やかな仕事ではありませんが、自らが打ち上げに関わった衛星が今後の日本の安全保障等、政府の意思決定に貢献していくことにやりがいを感じます。
- ▶ **大変だったこと** 入省後数か月程度は、内閣衛星情報センター全体がどのように動いているのか分からない状態での調整業務、慣れない略語等に苦労しました。先輩方のサポートや実際に働く中で学び、対応してきました。



若手職員・女性

管制課の役割

内閣衛星情報センターが運用する情報収集衛星の管制を担当しているのが管制課です。管制とは衛星の状態の確認や衛星軌道の維持、宇宙ごみに衛星が衝突しないように回避させるといった業務に加え、作成された撮像計画の衛星への送信や撮像した画像データの受信タイミングの決定等、情報収集衛星ならではの管制も行っています。

主任開発官付の役割

主任開発官付とは、主任開発官をトップとして複数の開発官がそれを補佐し、情報収集衛星システムの開発や、衛星から受け取った画像を可視化する画像処理等を担当しており、開発から運用まで幅広い業務を取り扱う部署となっています。

〈先輩からのメッセージ〉

- ▶ **業務内容** 地上システムの計算機調達及び次期地上システムの開発管理です。
- ▶ **魅力** 地上システムという内閣衛星情報センター全体のシステムを見ることができる開発に関わっていることです。また、そのなかで開発管理というマネジメント業務の一環として、ビジネスフレームワークを利用した業務ができることが魅力です。
- ▶ **やりがい** 情報システムの開発に関わるので、開発文書の策定など、何をどう開発していくか、計画を立てたり、その過程でビジネスフレームワークを活用したりなどにやりがいを感じます。また、開発管理をするには、色々な知識が必要になり、専門外の知識について、自分が持っている知識を軸にどう吸収・対応していくかを考えるというのが面白いとも感じています。
- ▶ **大変だったこと** 数学専攻で宇宙工学だけでなく、工学全般に疎かったため、入省した当初は用語レベルから分からないことだらけで大変でした。とりあえず数式にアレルギーは無かったので、そこを軸に資料を読み漁って対応できるようにしました。



中堅職員・男性

- ▶ **業務内容** 次期情報収集衛星の開発管理を担当する部署に配属されており、令和2年2月に打ち上げた光学7号機を担当しています。打ち上げ前の設計・製造段階では、委託事業者や運用部門との調整を通して、衛星が仕様通り開発されているか確認します。打ち上げ後は、すぐに内閣衛星情報センターの運用部門による定常運用に入るわけではなく、初期確認期間を通して軌道上においても仕様を満足しているか委託事業者とともに確認します。
- ▶ **魅力** 現在の業務は、市ヶ谷庁舎にて委託事業者からの報告に基づく関係部署への開発進捗の共有、仕様調整及び幹部報告資料の作成等のいわゆるデスクワークが中心ですが、開発段階の節目には衛星開発工場に向いて審査会に出席したり、製造中の衛星実機を直接確認したり、時には種子島宇宙センターに出張し、衛星本体をロケットに搭載する現場を確認する機会もあります。このように国内最先端の衛星開発に直接携わることができることは大きな魅力です。
- ▶ **やりがい** 人工衛星を開発するという他省庁では味わえない一連の業務に、着任後比較的早い段階から携わることができることが、他省庁では味わえないやりがいだと感じています。
- ▶ **大変だったこと** 日々の仕事は資料の確認や関係部署との地道な作業の積み重ねが中心ではありますが、専門用語の飛び交う資料や会議の内容をかみ砕き、幹部等への報告資料案を作成し、当センター内の意思決定の場で承認にこぎつけたときや事前調整に時間を要しましたが、大きな達成感を味わいました。



若手職員・男性

副センター・受信管制局



送受信設備(副センター、北・南受信管制局)

副センター及び北・南受信管制局には、情報収集衛星とデータを相互に通信するためのアンテナが設置されています。アンテナはレドームと呼ばれる外殻に囲われています。このアンテナを通じて情報収集衛星の管制や状態の確認を行ったり、アンテナ自体の維持管理（健全性確認、部品交換など）を行っています。

中央センターのバックアップ（副センター）

副センターは中央センターのバックアップとしての役割を有しています。そのため、副センターではアンテナを用いた情報収集衛星の運用だけでなく、撮像計画の作成、画像処理、画像の判読・分析といった、通常中央センターで行う業務も行うことが可能です。

衛星開発試験（副センター）

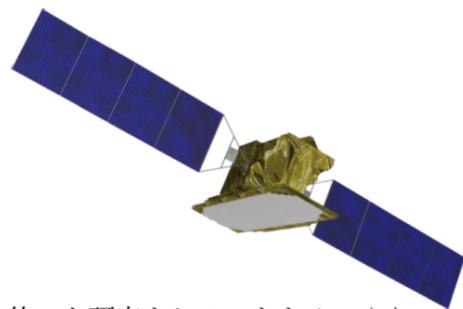
副センターの設備を用いて、情報収集衛星システムの開発に係わる試験を実施しています。衛星開発試験が進んでいく様子を、副センターでは間近で体感することができます。



日々の業務の流れ

	管理部	分析部	技術部	副センター・受信管制局
08:30		始業 判読・分析 担当する地域について、情報収集衛星によって撮像された画像を確認し、特異な事象があれば上司に報告し幹部への報告の要否を検討。		始業 引き継ぎ・朝会 前日の夜勤帯の衛星運用の結果や本日実施する作業内容をシフト者含めた職員同士で情報共有。
09:30	始業 メール等確認 メールや資料の確認を行い、本日の打合せの準備。	資料作成 幹部へ報告する際は、報告予定の内容に関して資料を作成します。報告の流れをイメージしつつ、質疑に回答できるように必要と思われる知識を収集。	始業 メール等確認 登庁後は1日の予定とメールを確認し、今日の打合せの事前資料の確認。	メール等確認／問合せ返信 メールの返信や資料の確認依頼等の問合せ。
	関係省庁等との調整 省庁等の必要とする情報やセンターの現在実施していること、必要とする情報を得るために必要なことを調整。		委託事業者との調整 担当衛星の開発において発生した不具合処置状況について委託事業者から報告を受け、優先的に取り組むべき項目の洗い出しや今後の開発スケジュールについて情報共有。	システム保守作業 システム稼働中に故障したHDDの交換作業を実施。
12:00		昼食 外の空気を吸って気分転換するため外食。忙しいときはお弁当。	昼食 仕事を立て込んでいない限り外食。時々職場近くのカフェで甘いドリンクを買ってリフレッシュ。	昼食 基本的にはお弁当を持参、もしくは仕出し弁当や近所の飲食店で食事。
13:00	上司への報告 午前中の調整の結果を上司に報告。	分析結果報告 作成した資料に基づいて分析結果の報告。	委託事業者との調整 衛星打上げ後に軌道上で確認する項目について、関係部署を交えて委託事業者と課題点について議論。	アンテナ設備点検 衛星運用しない時間帯を使って、アンテナのメンテナンス作業。庁舎からアンテナまでは徒歩移動ですが、程よく体を動かすため、いい気分転換になります。
	他部署との調整 午前中の調整内容をセンター内の関係部署と協議。		上司への報告 打合せ内容の要点を整理し、上司に報告。	引き継ぎ 本日の日勤帯の衛星運用の結果や明日実施する作業内容をシフト者含めた職員同士で情報共有。
	上司への報告 他部署との調整の結果を上司に報告。		会議資料作成 担当衛星とは異なる衛星の開発時に発生した事象の水平展開内容も踏まえ、会議資料の素案を作成。	
	翌日の業務の準備 本日の業務をまとめ、翌日に向けて資料等を準備。	退庁		退庁
17:15				
18:15	退庁		退庁	

先輩職員への一問一答

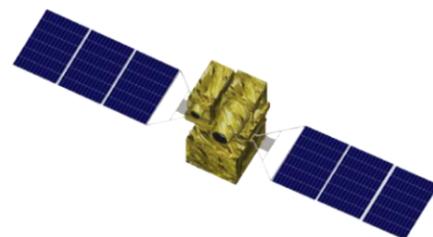


Q1. 志望動機は？

- ▶ 安全保障分野で働きたいと思っており、学生時代に衛星画像やGISを使った研究をしていたため、やりたいことと知識活用の両立ができるのではないかと考えました。ただ、研究分野が業務に関係のない職員もたくさんいますので、そこは心配しなくて大丈夫です。
- ▶ 学生の頃から安全保障に関わるニュースに大きな関心を持っており、国家公務員になり安全保障に携わることができるような仕事をしたいと考えていました。大学では物理学を専攻していたので、国家公務員を目指すとした時に、大学で学んだ知識を生かしたいとも思うようになりました。内閣衛星情報センターでは開発業務にも携わることができ、かつ安全保障に携わることができるため、自身の希望に合致していると考え志望しました。
- ▶ 福島に住んでいた高校生時代は東日本大震災、茨城に住んでいた大学時代には鬼怒川の氾濫と災害に触れる機会が多くありました。そのため、学んだ物理を災害対応に生かせる仕事で探していたところこの仕事を見つけ志望しました。
- ▶ きっかけは映画「シンゴジラ」でした。国家の危機に際して、計画立案の最前線に立って、主体的に事態対処に向かう姿に憧れを抱き、漠然と国家公務員になりたいと考えました。

Q2. リフレッシュ方法は？

- ▶ 平日仕事に行き詰まると甘いものをつまんだり、コーヒーを飲んだりして一旦頭をリセットするように心がけています。休みの日は家でゲームをしたり漫画を読んだりして過ごしています。職場の人たちと遊びに行くこともあります。仕事を持ち帰ることができないのはオンオフが切り換えやすいという点で魅力だと思います。
- ▶ 少しでも仕事のことを考えてしまうと、あれもこれもと気になってしまい、精神面で休まらないので、他のことを何も考えず、没頭できるものがあると良いです。私の場合、健康面を考慮し、軽くランニングしていたのですが、つい最近、上司の勧めもあり、前から興味があったロードバイクに乗り始め、休みの晴れた日は、それでリフレッシュしています。
- ▶ 陶磁器を鑑賞したり、温泉に入浴したり、農作物を栽培したり…



Q3. 一緒に働きたい人物像とは？

- ▶ 内閣衛星情報センターの業務は非常に多種多様だと思いますし、そのどれもが運営のために重要な業務です。なので、どのような業務に対しても意欲的に取り組み、分からない業務も周りの方と協力して進めようとしてくれる方と共に仕事をしたいと思います。
- ▶ 情報収集衛星導入の目的や必要性に強く共感できる方です。個々の業務に対して、向き／不向き、好き／嫌いなどあり、同じ人間でも配属された部署により、熱意に差がでる場合があると思います。内閣衛星情報センターの目的に共感できる人であれば、熱意の差を少なくすることができると思います。
- ▶ 素直なこと、けれど、何にでも疑問を持つことができる人。全ての部署共通で言えることだと思っています。今の私の業務で例えると、画像を判読していて、ここにこれがあった時に、何故ここにこれがあるのだろうと疑問を持つことは大事なことで、持たない人は、そこで終わってしまいます。疑問を持つ人は少なくとも疑問を持たなかった人よりもその理由が理解できる機会が得られるかもしれませんし、次に他の画像を見たときに着目すべきところが自ずと解ってくるかもしれません。

育児中の女性職員から

私は、平成29年の春に長女を出産し、約半年の育児休業取得を経て職場復帰しました。産休前と担当業務は少し変わりましたが、同じ部署に復帰しました。

私が所属する分析部での主な業務は、衛星画像の分析と報告書の作成です。画像分析は、画像から得られる意味ある情報を漏れなくフォローし、一つ一つ評価していく、地味で骨が折れる作業ですが、緻密な積み重ねにより新たな発見に至ることが大きな魅力でもあります。育児により時間的制約がありますが、何とか効率を上げようと日々模索中です。

現在は、同僚の理解と支援に助けられ、勤務時間を短縮しています。分析部の業務は、日々の大まかなスケジュールが決まっているので、計画的に仕事をすることができ、とても助かっています。我が家は夫婦双方の実家が遠いこともあり、支援を得るのは難しいため、夫婦の一方でも安定したスケジュールで仕事ができるのは非常にありがたいです。

当センターは、政府の政策決定を支えるという非常に重要な任務を担う一方で、華々しいことはほとんどありません。ひたすら地味で、常に高い緊張感が求められる職場です。しかし、国家公務員に興味がある皆さんにとって、当センターの業務は他にはないやりがい溢れるものではないでしょうか。

加えて、当センターは「やりがいのある仕事」と家庭とが両立しやすい環境でもあります。どちらも諦めず、精一杯取り組みたい！という皆さん、当センターと一緒に働きませんか。



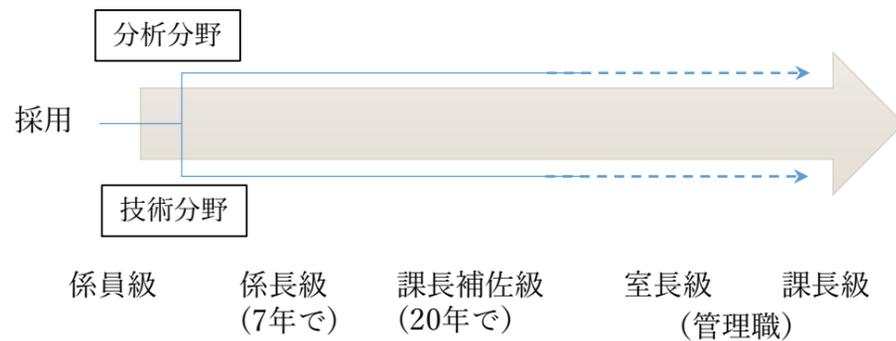
キャリアステップ・採用

キャリアステップ(一例)

採用後は管理部、分析部、技術部のいずれかに配属され、基礎的な行政事務手法を学ぶとともに、ローテーションを行い、当センター業務の全体像を把握していきます。

その後各職員の希望及び適正に配慮の上、それぞれの専門分野を決めていきます。

なお、採用区分と専門分野が同一になるとは限りません。



採用人数

内閣衛星情報センターでは、国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)の最終合格者を対象に、下表の通り採用を行っています。(括弧外が総採用者数、括弧内は女性の人数です)

試験年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
行政区分	1人 (0人)	2人 (1人)	3人 (2人)	3人 (2人)	4人 (4人)	5人前後 (予定)
技術系区分	3人 (0人)	2人 (0人)	4人 (1人)	3人 (3人)	3人 (2人)	

待遇(令和2年4月現在)

一般職試験(大卒程度試験)合格者の場合、行政職俸給表(一)1級25号俸が適用され、224,040円が支給されます(地域手当、本府省業務調整手当含む)。

なお、大学院を修了した方や職歴等がある方の場合、この金額にさらに加算された金額が支給されます。

このほか、扶養手当や住居手当、超過勤務手当などの諸手当が支給されます。

賞与(ボーナス)は6月と12月に、合計して年間4.45月分支給されます。

採用スケジュール(人事院発表)



4/3~4/15	受験申込
6/14	第1次試験
7/8	第1次試験合格発表
7/10~	官庁訪問
7/15~8/3	第2次試験(人物)
8/18	最終合格発表
10/1	採用内定

ワーク・ライフ・バランスに係る制度

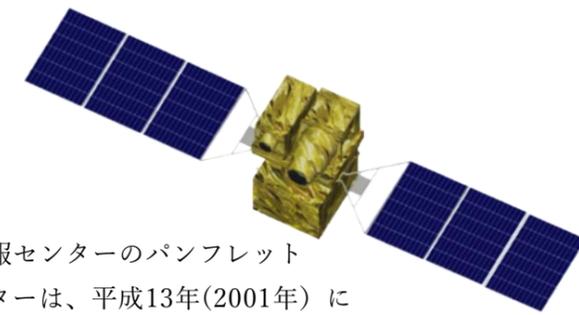
- **産前・産後休暇**
産前6週間~産後8週間の期間取得可
- **育児休業制度**
子が3歳に達する日までの期間取得可(男女ともに)
- **「男の産休」制度**
配偶者の出産に際し5日~7日間の休暇を取得可
- **出産費給付**
職員又は不要する配偶者の出産時に、共済組合より給付(約40万円)
- **育児短時間勤務制度**
小学校就学前の子を育てる職員(男女問わず)が、定められた勤務の形態により希望する日・時間について取得可
- **子の看護のための休暇**
小学校就学前の子の看護のため、子1人につき年間5日取得可(2人以降は年間10日まで取得可)



内部教育の一例

採用後、業務を行う上で必要な専門知識等は、以下のような教育(一例)が実施されます。

- 衛星及び画像に関する一般知識
- 英語教育
- 分析官教育
- 管制官教育



採用担当より

公務員を志望されている学生の皆さん、この度は内閣衛星情報センターのパンフレットをお読みいただきありがとうございます。内閣衛星情報センターは、平成13年(2001年)に設立された非常に若い組織であることもあり、説明会への参加やパンフレットを読むまで、当センターのことをご存じなかった方も多いと思われる。(私もそうでした)

年度末以降、集会の自粛要請もあり、省庁の説明会の多くが中止となりました。皆さんが志望先の情報を得る機会が大幅に減少し、ご苦労をされていると思います。

そのような状況の中、内閣衛星情報センターの業務を知ることが出来るようにと考え、このパンフレットを作成いたしました。また、今後もパンフレットや説明会以外にも皆さんが情報を収集できるよう採用担当者としても知恵を絞っていきたく考えます。

内閣衛星情報センターのことをよく知っていただき、その上で志望先の一つとしてご検討いただければ幸いです。

HPでも情報を公開しています
<http://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/csice.html>

